

## ■行程

①道の駅…スタート

②誠照寺（じょうしょうじ）

”鯖江の御本山”として親しまれてきた誠照寺は、京都の東本願寺や西本願寺と同じく浄土真宗十本山の一つである。境内の中央にある御影堂は県内で最大の木造建築物である。正門の四足門は「鳥棲ますの門」とも言われ、彫刻「駆け出しの龍」は日光東照宮の眠り猫を手がけた左甚五郎作と伝えられている。

③あやめ呉服店

国の登録有形文化財。店舗兼主屋は2階部分が黒漆喰塗の重厚な外観を持ち、趣のある店構えは歴史を感じさせる。店内の「呉服」の大看板の文字は福田大觀（後の北大路廬山人）によって彫られたものである。

④萬慶寺（ばんけいじ）

鯖江藩主間部家の菩提寺。1720年に初代藩主間部詮言が越後村上から鯖江に国替された時に建てた「萬松庵」が前身。詮勝公による天井墨絵の風神、龍神、雷神が有名で鯖江市指定文化財である。

⑤王山古墳群（おうざんこふんぐん）

国指定文化財。弥生～古墳時代の墳墓・古墳が約50基あり、土器や鉄刀等貴重な資料が出土している。丘の尾根筋に方形の墳墓、斜面には古墳時代の円墳が認められている。現在は史跡公園として整備されている。

⑥舟津神社（ふなつじんじゃ）

崇神天皇の時代（紀元前1世紀）に北陸地方を平定した大彦命が祭神で、その時賊に放った矢が鯖の尾に似た「さばや」であった事が鯖江の由来と言われている。北陸有数の古い社で本殿・大鳥居・赤鳥居は県指定文化財である。

⑦旧鯖江地方織物検査場

明治時代、繊維産業が盛んで繊維大国とも呼ばれた鯖江の名残を留める洋風2階建ての建造物で国の登録有形文化財。当時鯖江近辺で生産された織物はここで検査を受け合格したものだけが出荷されていた。

⑧松阜神社（まつがおかじんじゃ）

明治15年に間部家別邸跡に鯖江藩邸から萬慶寺に移転された受福寺堂とその門（指定文化財）を移築して神社となった。鯖江藩主間部家の祖詮房、初代詮言、7代詮勝を祭神としている。

⑨鯖江藩家老 植田家長屋門

鯖江市指定文化財。植田家は代々鯖江藩家老の家柄。長屋門というのは上級武士の住宅の表門として広く利用された形式で、門を挟んで両脇にいくつかの部屋があるものである。今も居室として使われている。代々鯖江家老藩の家柄。長屋門は旧藩時代の数少ない遺構の一つとして鯖江市文化財に指定されている。

⑩ヨーロッパン キムラヤ

日本で一番堅いパン「軍隊堅麺麯」で有名な老舗パン屋。大福あんぱんも有名。

⑪恵美写真館

明治38年に建てられた洋館及び表門が国の登録有形文化財。洋館は和風に洋風を取り入れ、外観の疑似大理石手法や漆喰模様等に優れた左官技術が見える。表門はアーチ状の銅板葺とする特異なものである。

⑫地蔵橋

戦国時代、織田勢は路傍の地蔵を川に投げ入れてその上を進軍した。後年「わが体を踏ませて、通る衆生に功德を与えよ」とのお告げを受けた僧が、放置された地蔵を引き上げて小川の橋にした事がいわれである。

⑬道の駅…ゴール

